



混声合唱団 A R A O 団員

橘高桃江さん

きったか・ももえ 1928 (昭和3) 年生まれの89歳。中央区在住。万年青大学にて書道の講師も務める。趣味は万葉集の書き写し。モットーは「周りの皆さんへの感謝を忘れずに日々生きる」こと

「50歳を目前に新しいことを始めたいと思っていました。職場の同僚の勧めで練習を見に行ったのが合唱との出会いです」と話す橘高さん。創立50周年の節目を迎える混声合唱団 A R A O の最高齢団員です。1967 (昭和42) 年に設立された同合唱団は荒尾市民合唱団を前身とし、全日本合唱コンクール県予選で金賞を受賞し九州大会に進出するなど活躍しています。「初代指揮者の下田先生は、人の和と音の和は一体のものだと教えておられました。だから団員たちはみんな仲良し。これが良いハーモニーを生んでいるのかもしれない」

真つすぐと伸びた背筋は89歳という年齢を感じさせません。「合唱は声が命。歌自体の練習はもちろん、筋力アップ体操やリズム体操など体全体トレーニングも取り入れて体と声を維持しています。でも本番に向けてのワクワク感が一番のやる気の源ですね」とにっこり。「私たちは童謡・民謡・ポップス・ミュージカルなどジャンルにとらわれずさまざまな音楽に挑戦しています。合唱を通して音楽の楽しさを多くの人に感じてもらい、一緒に楽しんでもらう場面を想像するとワクワクします」

市民文化祭に参加する同合唱団は、文化センターで創立50周年記念演奏会を開催します。「初披露する混声合唱組曲『あらお』をぜひ皆さんに聞いて欲しい」と橘高さんは意気込みます。混声合唱組曲「あらお」は、団員たちが企画・立案から作詞までを行い、久留米市出身・在住の作曲家が作曲をしたオリジナル作品です。豊かな自然、文化、歴史、人など、荒尾の多くの魅力が盛り込まれています。「未来の世代に今の荒尾の素晴らしい情景を伝えたいとの思いが込められた組曲です。素朴で親しみのある歌詞とメロディーの曲が多く、ふるさと荒尾を思いながら、皆さんに口ずさんでもらえたらと思います」



1_ 昨年の定期演奏会。24人の団員の和を大切に、美しいハーモニーを届けてくれました 2_ 2009 (平成21) 年からはミュージカルにも取り組んでいます。「来てくれるお客さんに楽しんでもらえるようさまざまな事に挑戦したい」と橘高さん 3_ 11月19日(日)の創立50周年記念演奏会に向け、混声合唱組曲の作曲家近見泰さんを迎えて合宿を行いました

